

## 8. 甲状腺腫瘍のタリウムシンチグラフィの再評価

久米 典彦 内迫 博路 菅 一能  
菅野 文め 清水 建策 松井美補子  
定永 雅子 中西 敬 (山口大・放)  
宇津見博基 山田 典將 (同・放部)

$^{99m}\text{Tc}$ あるいは $^{123}\text{I}$ による甲状腺シンチグラフィで cold nodule を示し、Tlシンチグラフィを施行され、細胞診または手術において組織学的確定診断がなされた70症例について検討した。Tlシンチグラフィで early scan と delayed scan を併用し、delayed scan での集積が正常甲状腺より強いものを悪性とした場合、sensitivity 75.0%, specificity 86.8%, accuracy 81.4%と高い正診率が得られた。悪性で Tl 集積が見られなかったものが2例、良性で強い Tl 集積が見られたものが5例あった。その7例について、組織学的検討を加え考察した。

9. 甲状腺シンチグラフィ ( $^{123}\text{I}$ ,  $^{201}\text{TlCl}$ ,  $^{99m}\text{TcO}_4^-$ ) にて興味ある像を呈した嚢胞性甲状腺腫の1例

山本 博道 津野田雅敏(岡山労災病院・放)  
野崎 功雄 間野 正之 (同・外)  
加藤 勝也 奥村 能啓 清水 光春  
竹田 芳弘 平木 祥夫 (岡山大・放)

症例は、58歳、女性。主訴は右頸部の腫脹。US、X線CTで右甲状腺下極に3cm弱の嚢胞性腫瘍を認め、充実性成分や壁の不整を認めず、出血等の変化により強い嚢胞性変化をきたした甲状腺腫あるいは腺腫様甲状腺腫と診断した。TcおよびIシンチグラフィでは、予想に反し腫瘍は hot nodule となり、非腫瘍部の軽度の集積低下を認め、きわめて稀な autonomous functioning cystic adenoma を疑った。なお腫瘍は Tl シンチでは warm nodule となっていた。手術により、嚢胞性変化の強い濾胞状甲状腺腫と確診され、免疫組織化学法で腫瘍のホルモン分泌能の存在が示唆された。

## 10. 各種シンチグラフィが術前に施行された副甲状腺癌の1例

藤江 俊司 守都 常晴 郷原 英夫  
佐藤 修平 赤木 史郎 安井光太郎  
河野 良寛 清水 光春 竹田 芳弘  
平木 祥夫 (岡山大・放)

原発性副甲状腺機能亢進症の原因として副甲状腺癌は稀であるが、今回われわれは術前に各種シンチグラフィを施行できた症例を経験したので報告した。症例は35歳男性で、多尿、口渴が主訴であった。高Ca血症があり、尿崩症も疑われ、US、CTにて甲状腺または副甲状腺の腫瘍を指摘され、 $^{201}\text{Tl}$ - $^{99m}\text{Tc}$  サブトラクションシンチグラフィおよび $^{67}\text{Ga}$ シンチグラフィを施行した。 $^{201}\text{Tl}$ - $^{99m}\text{Tc}$  シンチでは甲状腺右葉下極付近に早期像、後期像ともに高集積がみられ、 $^{67}\text{Ga}$ シンチでも同様に高集積がみられ、症状も考慮に入れ副甲状腺癌を強く疑い摘出手術を行った。 $^{67}\text{Ga}$ シンチが副甲状腺腫瘍の良悪性の鑑別に有用ではないかと思われた。

11.  $^{123}\text{I}$ -IMP 肺シンチグラフィを施行した肺原発悪性リンパ腫の2例

菅 一能 定永 雅子 内迫 博路  
清水 建策 久米 典彦 中西 敬  
(山口大・放)  
西垣内一哉 (国立下関病院・放)

肺原発悪性リンパ腫の2例に $^{123}\text{I}$ -IMP肺シンチグラフィを施行した。2症例ともに胸写やCT像は air bronchogram を伴い緩徐な増大傾向を示す病変を有し、無気肺や難治性肺炎、結核などの炎症性病変も考え得る所見を呈していた。しかし $^{123}\text{I}$ -IMP肺シンチグラフィの遅延像(24時間後)上、無気肺や炎症性病変が示すような病変部への異常集積は認められず、正常肺組織を置換する病巣である腫瘍性病変を示唆するものとして $^{123}\text{I}$ -IMP肺シンチグラフィは鑑別診断上、有用であった。